

市議団ニュース

NO. 1780
15.07.12
日本共産党根室市議団
宝林町4-203
電話23-6023
FAX24-1684

戦争させない・九条壊すな！根室市集会開く

ねむろ「九条の会」が呼び掛けた、「戦争させない・九条壊すな！総がかり行動根室実行委員会」は、二十一賛同団体、二つの政党と賛同する個人百六十人以上が参加する大きな組織となりました。この「実行委員会」主催で、いま国会で審議されている「違憲」の「戦争立法」に反対する集会が7月3日午後6時から市文化会館多目的ホールで開催されました。集会には二十一の賛同団体、社民党、共産党と個人賛同者など約150名が集まり、「戦争立法に反対」「憲法守れ」とそれぞれの立場からの発言が相次ぎました。



集会であいさつする細川憲了実行委員長（ねむろ「九条の会」代表）

実行委員会に多数結集

「総がかり行動根室実行委員会」には、建交労島津商店支部、建交労根室支部、自治労市職労、新婦人、全道庁、年金者組合、道退教、全労働職安支部、勤医協友の会、勤医協ねむろ医院、勤医労、根教組、空襲研究会、高退連、市関連職労、市児童館労組、市労連、母親連絡会、たんぼぼ企業組合、根労連、高教組の賛同二十一団体（呼びかけ団体を除く）と個人賛同者百六十七人が参加する組織になっています。個人賛同者には、考古学者の北構保男氏、元市議会議員の田家政一氏、医師の田辺利男氏

、江村裕司氏、上田則之氏を始めとして元学校長、教員経験者、美術などの文化関係者、酪農家、漁業者、自然保護関係者、スポーツ関係者、元労働組合関係者、元町内会役員や主婦の方々などが名を連ね「市民運動」上でかつてないほどの歴史的運動となつていきます。

平和の願い込めた発言

3日の集会では幹事団体の全道庁浜屋議長、市労連の丸子副委員長、市職労の松崎委員長、元市議会議員長田家政一さん、若い世代から勤医協ねむろ医院の有田明恵看護師、退職者の武隈善次さん、女性の柴草道子さん、フロアー発言では、織田忠弘らが発言しました。戦争法は「憲法違反」。「国会を包囲する世論を大きく」「あの恐ろしい戦争体験者だからこそ絶対戦争はダメ」「憲法に違反しても罰せられないがこれを権力者は肝に銘ずるべき」の声が次々出され最後に副実行委員長の根労連議長中山裕一氏が「世論の大いなる喚起こそ廃案への道」とし今後も団結ガンバロウと訴えました。

議会も「サケマス問題」の対応へ

ロシアが上、下両院で可決し、プーチン大統領が六月二十九日に「ロシア海域での流し網禁止法」にサインした問題は、この水域でのサケマス流し網による水揚げに頼ってきた根室市にとって、地域の死活的な問題へと発展しつつあります。根室市等の試算では釧根地域全体で251億円にも及ぶ損出額でその内、根室市分は約250億円とされています。しかし、地域では多くの職種がこのサケマス漁に関連しており、実際にはこの「試算額」をはるかに超える影響が予想されると言われています。直ちに経済的な影響が出ている分野や秋以降、とりわけ年末の影響が計り知れない状況となる分野も出ており、地域経済はもとより、地域社会の崩壊につながるかならない状況とも言われています。



このため市は「ロシア200海里内サケマス流し網漁業根室市対策本部」を再スタートさせて対応しています。二元代表制の一方である市議会での対応が十分でなく、どの様なことが求められるのか「各派代表者会議」が7月6日に開かれこの問題への対応が話し合われました。この会議の中で、各派の代表者から国が「行政や経済団体に対して動くなどいう趣旨を伝え来た目的が何処にあるのか」「道の対応や国の機関の対応に疑問がある」「等々の「怒り」の声も出され、市中経済の深刻な実態に対する確かな対応策が必要との認識で一致しました。

今後、議会としてどういう組織を立ち上げて取り組んでいくのか、今週の金曜日に再び「代表者会議」を開催し、遅くとも7月第4週には、緊急議会を開いて組織の立ち上げと同時に今後、議会としての活動方向を早急に検討することを決めました。